

Portable communication device

Patent Number: ☐ US6075983
Publication date: 2000-06-13
Inventor(s): KUMAGAI KEIICHIROU (JP)
Applicant(s): NIPPON ELECTRIC CO (JP)
Requested Patent: ☐ JP10051349
Application: US19970903648 19970731
Priority Number(s): JP19960203625 19960801
IPC Classification: H04Q7/32
EC Classification: G07C9/00C2D, H04M1/66, H04Q7/32A6, H04M1/2745,
Equivalents: ☐ GB2315954

Abstract

There is disclosed a portable communication device comprising a storage section for managing a plurality of personal numbers and information regarding a plurality of individuals on a personal basis, whereby a plurality of users can use the device in a mode set according to each of the users. The portable communication device (portable telephone set) comprises an antenna section 1, a radio section 2, a voice processing section 3, a microphone section 4, a speaker section 5, a central control unit 6, an operation section 7, a display section 8 and a data processing section 9. The central control unit 6 controls the radio section 2, the voice processing section 3, the operation section 7, the display section 8 and the data processing section 9. The central control unit 6 includes a user retrieving section 11. By inputting a password from the operation section 7, a switch is made to a personal mode. Accordingly, a personal number (PSID) for each user can be transmitted/received and data can be managed on a personal basis.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(2)

2

態になる。

【0005】また、特開平6-21884号公報には、有線回線に接続された状態とこれと無線通信する子機とからなる無線電話装置において、子機を携帯して使用する場合、利用者の子機に記憶された電話番号・初期設定等のメモリ情報を親機の記憶メモリにブロック化して一括して記憶管理し、親機から子機に転送して子機のメモリ情報の内容を入れ換えることにより、個々の利用者に応じた子機の電話番号・初期設定等のメモリ情報を設定することができ無線電話装置が簡示されている。

【0006】

【説明が解決しようとする課題】しかしながら、従来の携帯用通信機では、1台を複数人で使用する場合、利用者毎に管理できる記憶部を有しておらず、また、基地局に発信できる個人番号は1台につき1しかあり、個々の利用者で使用する記憶部・初期設定等のメモリ情報で、複数人で使用した場合でも基地局では利用者が誰であるか判断できないため、それぞれの電話番号や通話料金などを個別に管理できないという問題がある。

【0007】さらに、個々の利用者に応じた電話番号・初期設定等のメモリ情報が親機のみで設定されており、子機だけでそれらの情報を記憶、管理できないため、個々の利用者で使用する記憶部・初期設定等のメモリ情報を親機から子機に転送する動作がわずらわしいという問題がある。

【0008】本発明の目的は、1台の携帯用通信機を複数人で使用したい場合に、複数人の情報を個々に管理でき、複数人の情報を記憶する記憶部から利用者別の個人番号を選択して、発信、及び受信できる携帯用通信機を提供することにある。

【0009】また、本発明の他の目的は簡単に利用者を選別することができる携帯用通信機を提供することにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】本発明による携帯用通信機は、電話番号等のデータを記憶させる記憶部を有する無線通信機において、通信機に前記データを記憶する個人番号を記憶する記憶部を有し、前記データは利用者毎に設定されたパスワードによって保護、及び管理されることを特徴としている。

【0011】前記個人データ記憶部は、利用者毎に応じたPSID（個人番号）を備えていることが好ましい。

【0012】前記パスワードは、利用者を判別できる指紋や声紋等に代用できる。

【0013】携帯用通信機に複数人のデータを個別に記憶させる記憶部が設置され、パスワードによって利用者別のPSIDを識別して、発信及び受信できる。従って、利用者別に電話番号、通話料金等の管理ができる。また1人で使用すれば、1人で複数台の携帯用通信機を持つていくことと同じ効果があり、私用と公用とを1台

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 少なくとも通信機に電話番号等のデータを記憶させる記憶部を有する携帯用通信機において、前記データを利用者毎に記憶できる個人データ記憶部を有し、前記データは利用者毎に設定されたパスワードによって保護、及び管理されることを特徴とする携帯用通信機。

【請求項2】 前記個人データ記憶部は、利用者毎に応じたPSID（個人番号）を備えていることを特徴とする請求項1記載の携帯用通信機。

【請求項3】 前記パスワードは、利用者を判別できる指紋や声紋等に代用できることを特徴とする請求項1又は2記載の携帯用通信機。

【発明の詳細な説明】

【0001】
【発明の属する技術分野】本発明は携帯用通信機に関する。特に複数人の個人情報を管理できる携帯用通信機に関する。

【0002】

【従来の技術】携帯用通信機で代表される携帯用通信機は、図3に示すように、電波の送受信を行うアンテナ部21、無線信号の送受信を行う無線部22、音声信号の各処理を行う音声処理部23、音声の入力を行うマイク部24、音声の出力を行うスピーカ部25、携帯用通信機の装置全体の制御を行う中央制御装置26、利用者からの操作信号を入力するボタン及びスイッチ等を配置した操作部27、表示を行う表示部28、データを蓄積するメモリ部29で構成されている。

【0003】以上のように構成された従来の携帯用通信機について、以下その動作を説明する。利用者がメモリ部29に電話番号や住所等のデータあるいは起動時の機能に関する初期設定を入力する場合、操作部27からメモリ部29に記憶させたいデータを入力する。操作部27より入力されたデータは表示部28に表示され、利用者はその表示を確認の上、操作部27よりメモリ部29に記憶させるデータをメモリ部29に記憶させる。また、メモリ部29にデータを追加する場合、上述の動作を繰り返すことによりメモリ部29の空き領域がなくなるまで追加することができる。

【0004】メモリ部29に記憶されたデータの読み出し、或いは変更する場合、読み出したデータは操作部27より指定することによって、中央制御装置26がメモリ部29からデータを読み出し表示部28に表示し、表示部28を確認しながら操作部27より変更を行う。利用者は初期設定等の記憶されたデータに関しても同様な動作により確認及び変更することができる。メモリ部29に記憶されたデータはバックアップされ電源をOFFしても消去されず、再度携帯用通信機の電源をONすることにより最後に入力したデータの初期設定の状態

(11)特許出願公開番号

特開平10-51349

(43)公開日 平成10年(1998)2月20日

(12) 公開特許公報 (A)

(19)日本国特許庁 (JP)

技術表示箇所

P I

H04B 1/40

H04Q 7/38

109S

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

代表者 敬一 郎

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社 社内

(72)発明者

井理士 京本 直樹 (外 2 名)

(21)出願番号 特開平8-203625

平成8年(1996)8月1日

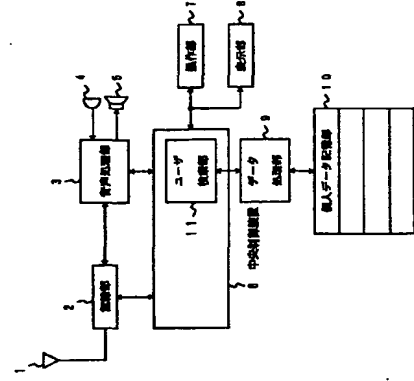
(22)出願日

(54) 発明の名] 携帯用通信機

(57) 【要約】

【課題】 複数の個人番号及び複数人の情報を個々に管理できる記憶部を持たせることによって、複数の利用者が各々の利用者に応じた設定で使用できる携帯用通信機の提供。

【解決手段】 携帯用通信機（携帯電話機）はアンテナ部1、無線部2、音声処理部3、マイク部4、スピーカ部5、中央制御装置6、操作部7、表示部8及びデータ処理部9を有している。中央制御装置6は無線部2、音声処理部3、操作部7、表示部8及びデータ処理部9を制御している。操作部7よりパスワードを入力することによって、個人用モードに切り換わり、利用者に応じたPSID（個人番号）を発信、及び受信でき、利用者に応じたデータを管理する。



(3)

で使い分けをすることができる。

[0014]

【発明の実施の形態】次に本発明の一実施例について、図面を参照して説明する。図1は、本発明による携帯用通信機の構成を示すブロック図であり、図2は本発明に従った動作手順のフローチャートである。

【0015】以下、携帯用通信機を携帯電話機として実施例を説明する。

【0016】まず、図1を参照して、本発明の携帯電話機の回路構成について説明する。

【0017】同図において、基地局から送信された信号は、アンテナ部1で受信され、無線部2、音声処理部3を通して、スピーカ部4で音声信号として出力された。マイク部4で受信した音声は音声処理部3、無線部2、アンテナ部1を通じて、基地局に送出され通信が行われる。また、中央制御装置6は無線部2、音声処理部3、操作部7、表示部8及びデータ処理部9を制御している。中央制御装置6には、ユーザ検索部11が設置されている。

【0018】次に、本発明に係る携帯用通信機（携帯電話機）の動作について図1を参照して説明する。

【0019】まず、利用者の登録は、パスワードを設定することによって行う。利用者毎にパスワードを設定することによって、利用者別にブロック化された個人データ配列10に記憶された利用者毎のデータ（電話番号や住所等）を削除することができ、また利用者別に記憶されたデータ或いは起動時の機能に関する初期設定）を利用者毎に管理することができる。また利用者別のPSID（個人番号）は、利用者別にブロック化された個人データ配列10に予め登録されている。このPSID毎に対応するパスワードを設定することにより、複数人の使用、個別管理を可能とする。

【0020】利用者が個人データ記憶部10に上記データを入力する場合、操作部7からパスワードを入力し、操作部7よりそのパスワードが検索できたならば、操作部7よりそのパスワード（個人用コード）に切り換える。次に、操作部7が個人データ記憶部10に記憶させたデータを、操作部7より入力されたデータは表示部8に表示され、利用者は表示を確認の上、操作部7より個人データ記憶部10に記憶させるボタンを押すことにより、個人データ処理装置10にデータ処理部9を介し、データを個人データ記憶部10に記憶する。

【0021】また、個人データ記憶部10にさらにデータを追加する場合、上述した動作を繰り返すことにより、個人データ記憶部10の空き領域が無くなるまで追加することができる。

【0022】個人データ記憶部10に記憶されたデータの読み出し、或いは変更する場合も、上述した動作と同じように、まず操作部7からパスワードを入力して個人用モードに切り替える。次に読み出したデータを操作部7より指定することによって、中央制御装置6がデー

タ処理部9を介し、個人データ記憶部10からデータ全体を出し表示部8に表示し、表示部8を操作しながら操作部7より変更を行う。利用者は初期設定等の設定されたデータに就いても所定の動作により設定及び変更することができる。個人データ記憶部10に記憶されたデータはバックアップされた電源をOFFしても消去されず、再度携帯用通信機の電源をONすることにより最後に入力されたデータの初期設定の状態になる。

【0023】次に、本発明に係る携帯用通信機が発呼する場合には、上記動作と同様に、まず操作部7よりパスワードを入力し、ユーザ検索部11でパスワードの検索を行う。ユーザ検索部11で上記パスワードを検索できた場合、データ処理部9を介し、個人データ記憶部10より利用者のPSIDデータが出力し、無線機2を介し、アンテナ部1より読み出されたPSIDを検索する。

【0024】この時、発信するPSIDは予め基地局に登録されている。そして、端末が操作された7のボタンにより選択される。そして、発信先の電話番号を操作された7のボタンにより選択し、表示部8に表示された電話番号で確認し、操作部7の発信ボタンを押して発信する。ここで発信されたPSIDは基地局で登録・取れるので、利用者別の電話番号の管理ができる。

【0025】また着信の場合、基地局から送られるPS IDはアンテナ類1を受けて無線機2を介し、ユーザ機3から基地局4へ送られる。無線機2は、基地局4から送られるPS IDと一対一で現在使用している利用者別PS IDと一致するかどうかの確認をする。ここで、PS IDと一致したら通話可能となる。基地局4から送られるPS IDと利用者別PS IDが一致しなければ通話可能にならないので、1台の携帯用通話機を複数人で使用していても、現在使用している利用者以外の電話はかかってこない。

【0026】図2は、本発明に従った動作手順を示すフローチャートである。まず、S1において操作部よりパスワードの入力を行い、S2において、入力したパスワードの検索を行い、S3にて、パスワードが検索できたかどうかの判断を行う。S3にて、パスワードが検索できなかったら、S4において、利用者の個人用モードに切り換わり、利用者毎に設定されたデータを用いて携帯用通信機を使用することになる。ここで、

⁴⁰ 【0027】また、利用者を判別する手段として、パスワードを入力する他に指紋や声紋によって判別することも可能である。この場合、パスワードを入力する操作部7に代えて、指紋や声紋を登録し、使用時検出する回路7にデータを、指紋や声紋を入力することにより、パスワードを入力するというわずらわしさを解消できる。

【0028】また、1台の携帯用通信機に複数の信号及び記憶部を持っているので、複数人で利用するのも可能であるが、さらに個人で使用しても、仕事用とプライベート用等と分けて使用することができる。

[0029]

(4)

【発明の効果】以上説明したように、本発明では携帯用無線機に記憶された記憶部が、各利用者のデータ（電話番号）を記憶し、各利用者のデータ（電話番号）を個別に管理し、さらに上記記憶部から利用者のＰＳＩＤを個別に呼び出し、発信及び受信できるので、利用者に電話番号を記憶しなくても、１台の携帯用無線機で複数人の電話が使用することができ、自分だけの携帯用無線機で他の人の電話が使用されていることも、自分だけの携帯用無線機で他の人の電話が使用されていることに気がつくことができない。

【0030】また1人で使用すれば、1人で複数台の携帯用通信機を持っていることと同じ効果があり、私用と公用とを1台で使い分けすることができる。

【図面の簡単な説明】

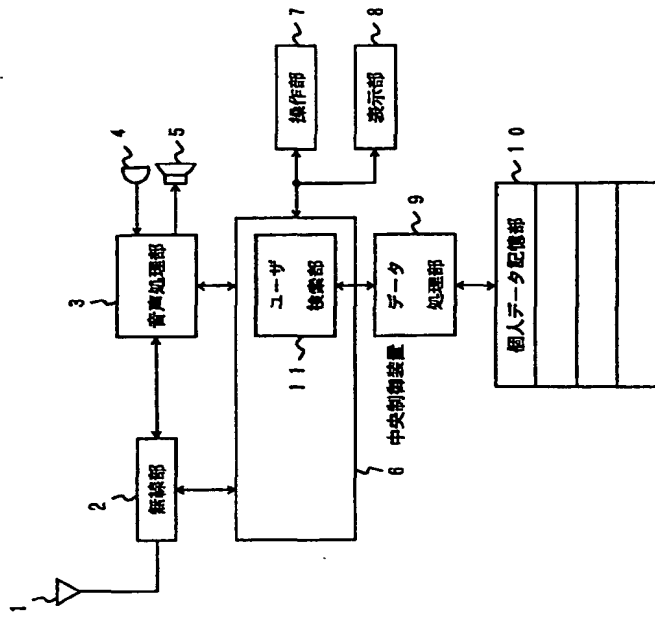
【図１】本発明の一実施例の携帯用通信機の構成を示すブロック図である。

【図2】本発明の動作を示すフローチャートである。

【図3】従来の携帯用通信機の構成を示すブロック図である。

【符号の説明】

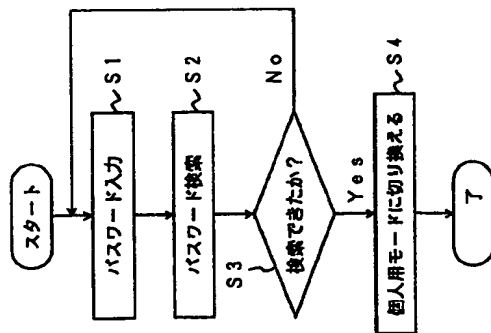
アンテナ部



【圖】

(5)

【図2】



【図3】

